

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **放課後デイサービス きぼう** 公表日 **2025年1月29日**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		適切なスペース。一目見てどの空間かわかる。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4	3	→現在、職員募集を行なっています。	・職員がギリギリな人数で動いているため現場が回らないこともある。 ・曜日による利用児童数や職員の体調不良や所用による有休、欠勤で人員不足になる不安定さ。短時間でもパート職員が不可欠ではないか。 ・日によって少ないと思うときがある(送迎などで人がいない時)
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1		・バリアフリー向けではない ・構造化はされているが建物の構造上、バリアフリーに制限がある
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		こども自身が1人で使用できる場所はないが、訓練等で使用できる部屋はある。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域連携・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	3	・人数が少ないのでチームではなく全員で意見交換している	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	パートタイマーの人がいるのでその日ではなく、次の日などで行なっている	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しを判断し、適切な見直しを行っているか。	7				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7				
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	4		・家族を通して行なっています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7				
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
		37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7				
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			・オンライン面談も行なっています。	
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだいで交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7				
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7				
42		定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1			
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
44		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7				
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7				
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	特定非営利活動法人FRONTIER		
○保護者評価実施期間	2024年11月17日		~ 2025年 1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2024年11月17日		~ 2024年 12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・課題を行なっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・およそ200種類の課題を用意しています。(パズル・ピン差し・マッチング・分類・組み立てなど) ・個々の能力にさせて、出来ることを伸ばしつつ、わからないことはスモールステップで少しずつわかるように課題を選び、利用時に3~5この課題を行なっています。 ・職員が指示をしなくてもわかるようにしていくことで、自立的に行なうことで、自尊心が芽生え育っていきます。 	・今ある課題に加え、個別的に必要と思われる支援や課題を増やしていきたいとします。
2	・構造化を行なっています。	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的構造化 部屋ごとに何をやる部屋か目的を決め、児童が混乱しないようにわかりやすく工夫しています。 ・視覚的構造化 絵カードやボードを使って、予定を表示して、見通しを持ってるように、混乱しないように配慮をしています。職員のコミュニケーションの手段に用いたりもしています。 	・今後も利用児童が混乱しないように、見通しを持って過ごせるように、一層の構造化を進めていきたいとします。
3	・調理訓練を行なっています。	・オリジナルレシピで、調理の工程など、写真を使い児童にわかりやすい手順書を作成し行なっています。これを基に準備から片付けまで児童一人ひとりが主体で行えるようにしています。個々の能力に応じて、職員がフォローし楽しく活動できるようにしています。	・今後もメニューを増やして行きたいとします。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員が集まりにくい	・行っている支援に専門性が必要なため、職員に適性が必要。 時間をかけて教育・養成していく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り、職員に毎日30分程度の学習する機会を設けて知識を得られるようにします。 ・行っている支援の内容や事業所の取り組みなど、SNSを通して発信することで興味、思いのある方などの求人につながるようにする。
2	・行なっている支援がわかってもらづらい	・事業所で行っている支援がなぜ必要なのか、なぜこのようなことをするのかを説明しても、わかってもらづらい。	・実行した支援の報告、見直し 保護者に向け、学習する機会を設けたりし、知識を持ってもらう SNSなどで取り組み成果を発信していく。